

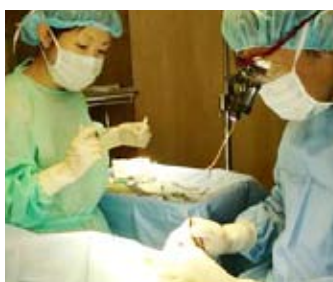
第3回キリバス医療支援(2010)

期 間:2010/08/30 ~ 9/10 参加者:小沢院長、木原医師、看護師(2名)、OMA

今年で3回目となるキリバス共和国での医療支援手術活動を8月31日より2週間の日程で行って参りました。キリバス共和国と申し上げてもご存知の方はあまり多くないかと思いますが、世界で最も早く日付が変わる国として知られている国です。国自体は、太平洋の中心に浮かぶ島々から成り立っており、人口は10万人前後で、面積は730平方キロメートルで日本の対馬とほぼ同じ大きさです。経済水域(世界第3位)を有し、海産資源の豊富な国です。



Republic of Kiribati
キリバス共和国



キリバスには現在、眼科医はおりません。赤道直下の国で、強い紫外線が起因とされる白内障で両眼を失明している方が数多くいらっしゃいます。医師不足で困り果て、医療支援の手が差し伸べられていない国として我々は、4年前にキリバス共和国に出会ったのです。

キリバスの現況として医療分野はボランティアに頼らざるを得ません。島国ですので、患者さんは医療を受けられると聞きつければ、何日もかけて船でやってきます。我々が診察する患者さんは、大変な思いをして診察を受けにやってくるのです。そのような環境のもと、今年は初めて首都タラワだけでなくタブノース島という離島でも外来診療と手術を行いました。

タブノース島はタラワから飛行機で1時間半ほどの所にある離島で、2日間の滞在で100人を超える患者さんを診察し、白内障手術も行いました。今回のタブノース島での医療支援活動は、日本からの医療機材が船便の遅延から届いておらず、限られた機器での手術でしたが、何とか無事に終わられました。

タラワでの医療支援では、診察は勿論のこと、白内障手術を数多く行いました。船便の遅延の関係で到着が遅れていた手術機材も無事に到着し、業務に専念することが出来ました。来院時、一人で歩けず、支えとなる人が必要だった患者さんが、手術後には光を感じ、ご自身の足だけで歩ける様になるなど、医療支援を始めてから毎年見る光景ながら感慨深く、感極まるものがあります。

私どもは、このキリバスで3回目の医療支援活動を行い、現地の方々と交流を深めてまいりました。私たちが必要としている患者さんがいる現実に、医療支援・技術支援の在り方を今一度、考える時期ではないかと感じております。

来年も患者さんの素晴らしい笑顔が見られる様、私どもはキリバス医療支援活動を続けて参る所存です。